

振興会ニュース

第 6 号

1997年 4 月

日本バスケットボール振興会

目 次

○ 平成 9 年度 振興会の理事会開催	1
○ 住田正二氏 新会長就任を承諾	3
○ 日本リーグの発展構想	4
J B L / 日本リーグ機構の理念	
J B L 加藤会長就任披露パーティ ご挨拶	
○ 平成 8 年度 秋季役員会の結果及び秋季懇談パーティ	7
○ 会員からの一言	10
井上 陽一 森澤 誠一 浅野 義尋 猪野 光威	
上野 晴弘 梅戸 仁 加藤 覚 国松 健一	
佐伯 正博 坂上 秀男 関 悦受 関 四郎	
日高 明 山縣 敏夫 下間 光雄 中川 幸男	
薄井 千代 小島 典江 庄司 芳一 松岡憲四郎	
佐藤 綾女	
○ 平成 9 年度 競技日程	22
(日本協会 日本実連 日本学連等)	
○ 事務局だより	24

日本リーグの発展構想

振興会としてはJBLに全面的協力を表明しているが、富士理事長が加藤会長と懇談の際に、JBLの発展構想として機構の理念と御就任の際のご挨拶の転載をお願いし了承を頂いたのでここに掲載し、多くの方々のご理解を深めたいと考える。

JBL／日本リーグ機構の理念

1. エキサイティングな試合で観客に夢と感動を提供

いつ見ても、また見たいと思うスリリングでエキサイティングな試合と、その環境作りでバスケットファンや国民に夢と感動を提供する。

2. 地域社会の発展・振興に貢献

バスケットボール競技の健全な普及と発展で地域社会の活性化振興に貢献し、地域社会文化創造に寄与する。

3. 国際社会での地位向上と文化交流に貢献

スポーツは世界共通語であり文化である。バスケットボールを通して国際親善と国際交流に寄与する。

4. 企業でのスポーツ育成・振興に協力

日本リーグの事業性確立で企業理解の浸透を図り、バスケットボールの社会的地位向上を目指すと同時に、日本のトップレベルの選手・指導者に対し、企業側の支援・協力を得られるよう努力する。

JBL 加藤会長就任披露パーティー ご挨拶

(1996. 9. 11)

ただ今ご紹介いただきました加藤でございます。

本日は大変お忙しいなか、メンバー各企業のトップ及びマスコミの方々をはじめ、この様に多くのバスケットボール関係者にお集まりいただきまして、誠に有難うございます。

折しも20年振りのアトランタ五輪での全日本女子チームの快挙の興奮覚めやらぬこの時期に、伝統と歴史のあるバスケットボール界、その中でも特に中核をなすJBL日本リーグの初代会長に就任させていただきますことは、私にとりまして、誠に光栄の至りでございます。私自身、過去7年間にわたる日本協会副会長としての経験を生かし、今後の日本リーグの発展と日本バスケットボール界の復興に全力を尽くす覚悟でございますので、どうぞ皆様のご支援・ご協力を宜しくお願い申し上げます。

さて日本のバスケットボール界も、全日本女子のアトランタ五輪の活躍や、昨年福岡で行われましたユニバーシアードでの、男子チームの銀、女子チームの銅メダル獲得と、世界の檜舞台で画期的な活躍をなし、益々今後の発展を見通せるものと期待を大きく膨らませるものでございます。

一方、国内でも、ミニから一般クラブチームまで3万以上のチームが登録され、指導者父兄等関係者を含めて、大変大きな組織となっております。また、NBA公式試合の国内開催や、衛星放送の普及、更にストリートバスケットやマンガ雑誌等で、一般にも広く理解され、様々な分野で多くのバスケットボールファンを獲得するに至りました。特に若年層を中心としながら、国内でのバスケット熱も上昇気流に乗っており、日本のトップである日本リーグの動向に注目が集まるのも必然でございます。

その様ななか、日本リーグも30年の歴史を重ねてまいりました。先人達や諸先輩方のご尽力により年々発展し、国内におきましても確固たる地位を築き上げ、日本のバスケットボール界発展にも大きく貢献してきたことも史実でございます。これも偏に日本協会と日本実業団連盟をはじめ諸先輩方の払われたご努力の賜であると深く敬意を表するとともに、この場をお借りして感謝申し上げる次第でございます。

しかし、こうした輝かしい日本リーグの歴史の前に、解決していかなねばならぬ課題も数多く山積しているのも現実でございます。更に、スポーツを取り巻く環境や、企業にとっての経済環境も依然厳しく、企業チームとしてのバスケットボールの社内的立場や社会におかれた位置もまだまだ不安定で低く、球界挙げて存続をかけた状態でございます。またスポーツ界独特の体質のなかで、我々バスケットボール界は、他のボール競技団体に比べましても、大きく遅れを取っているようにも思われます。

正にその復興の為には、中核をなす日本リーグの活性化しか道は残されていないと言っても過言ではございません。新生JBLが過去の体質を打破し、新たな事業展開のなかで活性化された球界を目指さなければならないと考えます。斬新なアイディアと若い人材を結集し、将来の日本リーガーを目指す現役選手

達に大きな夢を創っていく、活気のあるJBLにしていきたいと考えております。日本のバスケットボール界全体の発展に貢献することが、JBLとしての使命の一つであり、バスケットボールを愛する多くのファンと日本リーグ参加企業に対する責任であると考えます。

それと同時に、全国のバスケットボール関係者の悲願である男女アベックでの五輪出場の夢を、日本協会・関係連盟と力を合わせて実現させるべく活動する所存でございます。21世紀を目前にして、今この時に一步を踏み出さなければ、バスケットボール界に未来はないと、私自身が決意して臨むものでございます。

JBLトップとしての私の考え方は、先ず何と申しまして、日本リーグを事業化することにより、バスケットボールの社会的地位向上を目指すことでございます。その為にも日本のバスケットボール界の頂点である日本協会と、それに加盟する各団体との確固たる友好・協力関係を構築しつつ、世界におけるトップレベルの技術の獲得・維持を図り、日本のバスケットボールの健全な普及と発展に寄与すると同時に、地域社会の発展・振興にも貢献してまいりたいと考えております。

これらを実現する為には、まず、責任事業集団として、財政及び人材基盤、特に事務局専任スタッフ化及び各分野からの専門家の登用による事務局機能の強化が急務でございます。つまり、スポーツビジネスとしての商品価値を高め、経済活動の活性化を通して、球界の体質改善をすることにより、バスケットボールの社会的存在を早急に確固たるものにしていかねばならないということでございます。また、国際的にもFIBA・ABC或いはNBAとも連携しながら、ビジネスとして適正な評価を受けられるようにしていかなければならないと思っております。

更には、21世紀に向け、JBLとして一刻も早く地域社会を含め、世論及び参加企業各社に納得・理解していただける明確なビジョンを提示していくことでございます。チーム・行政・財界・マスコミとの四者一本化での運営により、より社会性を高めるとともに特に地域と密着した運営による地域振興にも力を入れるべきだと考えております。

そして将来、全国で日本リーグを目指すバスケットボールプレイヤーに夢を実現してもらえるバスケットボール専用アリーナの建設をしたいと、我々の夢も大きく膨らむものでございます。

ご参集の皆様とともに、それらの夢を一步一步実現すべく努力してまいる所存でございますので、今後ともご指導・ご鞭撻の程、宜しくお願い申し上げ、私の就任のご挨拶とさせていただきます。有難うございました。

会員からの一言

随 想

特別顧問
井上 陽一



此の頃は、長生きの秘訣は何か、と聞かれるようになり、わが人生の終着駅も余り遠くはないか、と改めて思いしらされている所です。此の長い生涯、85年ですが、色々ありました。関東大震災では、被害甚大の鎌倉の浜で遭遇したものの、運良く助かった。第二次大戦の勃発時には印度のカルカッタで三菱商事支店に勤務。突然、転任招令が来たのが、ベルリン行き。シベリア鉄道二週間の旅で、モスクワ、ワルショウ経由、やっとの事でベルリンに着いたのが、独ソ開戦の直前であった。ベルリンでは、ヒトラー総統の獅子吼を聞かされ、日本国敗戦の時は中立国スウェーデンに居り、遂に銃弾を被た事無くして、この大戦を生き残った幸運者の一人であった。と想いおこしています。

苦労と謂えば、スウェーデンから船で二ヶ月かかって帰国して早々、GHQの逮捕状が来て、スガモブリゾンに六ヶ月にわたった幽閉の身となった事ぐらいではなかった、かと思う。

併し、何と云っても、わが生涯一番の想い出、且つは、誇りと思っているのは、旧制成蹊高校に在学中、昭和6年、実に60有余年前の昔話ではありましたが、バスケット全日本総合で優勝をはたした事でありましょう。

予選の決勝では、当時バスケット界の雄、立教大学を破り、本選に入って其の決勝戦では牧山、森沢さん等の名選手を擁していた早大をも、まさかの連破をはたし、結局は高校チームの成蹊が、全日本の制覇をはたす事となった。当時の新聞は『高校の単独チームにして全日本を制す。今後とも二度とは無いであろう偉業なり』と。まさに其の通りであったと思う今日この頃ではありませんか。



バスケットボール
礼 賛 記

特別顧問
森 澤 誠 一



私は豊島師範附属小学校、開成中学校、早大理工学部電気工学科を卒業し、学友も相当多いのですが、最も多いのはバスケットボール関係の友人です。

早大昭十会の記念ネクタイピンを数十年間も愛用しています。「高明萬座」という彫刻がしてあり、この言葉が好きだからです。

自分は未熟であるが、自分の周囲には立派な友人が満ち満ちていて、人生を豊かにして呉れるという意味です。

早大時代は極東大会で日本代表チームに選んでもらい、卒業後就職先、名古屋の大同製鋼ではバスケットボール部を作ってもらい、戦後は愛知県協会の理事長を、上京後は、早大の監督や日本協会で大庭理事長のもと副理事長を命ぜられ、第三回アジア大会や、アジア選手権大会及びローマオリンピック等で、日本選抜チームの監督をさせてもらい、早大以外に他の大学の先輩、後輩にも多くの高明を得ることが出来、86才の今日も楽しい人生をバスケットに感謝し乍ら送っている次第です。従って私の人生感の多くはバスケット生活から、にじみ出たものです。

- 一 あらゆる学修の成果は基礎の充実にあり
 - 二 目的意識を持てば最短距離を歩み最小時間で最大効果が得られる。
 - 三 一日一日のコンディション作りが健康長寿の秘訣
 - 四 実行を体得するまでは知っていると言えぬ
 - 五 良い指導者は良い設計図を持つ
- 等、バスケットのお陰で、この様な信念も出来ました。

又私は読書が好きです。読書により自分の考えの整理が出来ます。バスケット生活で得た経験をフィルターとして共鳴出来る部分だけをいただいています。このことも礼賛記に追加しておきましょう。

ペル・リマの 世界選手権に出場

顧問
浅野義尋



1964年東京オリンピックの年の4月、日本女子バスケットボールチームが初めて今問題のペルー・リマの世界選手権に出場したのです。費用の関係（航空運賃の一部体協、他の全額会社負担）等から最強チームが編成できず全日本優勝の三菱電機単独、コーチの小生は世界の情報皆無での参加でした。

予戦では隣国のチリの大応援合唱に惜敗、ソ連の平均身長 186cm 対 160cm では大人と子供。下位リーグでは善戦しチリに勝ち韓国に次ぐ第2位で総合9位。多くの強化費を使っただけの男子の10位に対し、強化費「0」での9位との比較に恩師の吉井さんと言いつつ争ったのも今ではなつかしい思い出。リマの日本人会の暖かい歓迎と大使館公邸レセプションでの焼鳥のおいしさを思い出すにつけ、人質事件の早い解決を願わずにはいられない。

三菱電機の監督コーチを21年務め、現在は龍谷富山高のコーチと大学・高校のクリニックに走り廻っている日々です。

オリンピックでの女子の活躍には心から拍手を送りたい。女子バレーに比しての好成績にもかかわらず報道も少なく、ビッグゲームの全国向の実況もない。マスコミでのタイミングの良いPR広報こそ将来への大きな投資と言えるのではないのでしょうか。一方成長の著しい中学時での正しい指導特にシュート力を軸に攻撃力（ボディコントロール、ボールコントロール等を含め）を確実に身につけること、即ち指導者の適確な指導を願うのは私一人ではないと思う。



韓国での親善 試合の思い出

顧問
猪野光威



大韓民国、近くて遠い国といわれた頃。1973年、大学バスケットボールの招待を受けました。うれしかったですね。

私達の大学が関西では最初に国境を越えたチームとなった訳です。

当時韓国では全土に戒厳令が布かれ、市内の主要場所には銃をもった兵士が立っていたことを思い出します。社会生活は発展途上で、生活環境は日本との差は十年以上はあったように思います。

一般の人は外国との交流はなく、特に地方都市では大きな娯楽もなかったようですが、そこに日本チームが試合にきたということで、練習コートにまで大勢の観客が来るありさま、町には韓日親善試合の宣伝カーまでくりだしていました。

そんな関係で試合会場は超満員、観客はコートの一メートルまでおしよせ、選手席にまでせまるありさまで観客は選手の一挙手一投足に大歓声をあげていました。審判員がゲーム中観客を跳び越えて走っている場面もありびっくりしましたね。ソウルでは対戦大学の学生全員が応援に参加しています。そのリーダーの総轄的応援ぶりには只々感服した次第です。

このような応援風景は日本では先ず見ることはないでしょう。

バスケットボールは韓国の国技とまでいわれていますが、国民的感情か、特に日本人に対しては徹底的に勝負に拘りましたね。

通称愛国審判といっていました。厳しいジャッジをしていました。私達チームも常に厳しいプレーを演じ納得のいく内容で12日間韓親善を無事終了することができました。

お陰で私は韓国籃球協会の多くの方々と親交を得現在も交流を深めています。

あの時から25年の歳月、日韓のバスケットボールはどう変遷したのか。

提言

スポーツ界のドリーム競技、バスケットボール、それが日本ではなぜマイナー的存在なのか、私は陸上競技出身ですが、色々なスポーツを指導してきましたが、特にバレーボールには深い関係がありました。監督時代の苦慮期、ある学者から、次の一言を厳しく伝授されました。

「教育以前の教育を忘れてはいけない。」

高専バスケット ボール競技

顧問
上野 晴 弘



まず工業高等専門学校（以下高専と略）の特徴について触れます。

高専は全国に62校設置され、中学校を卒業した15歳の若年の学生を受入れる学校で、15歳から20歳までの5年間にわたった工業技術者を養成する教育機関です。

少年が青年になる時期で、肉体的にも精神的にも大きく発達し変動の激しい年代に当たり、指導上には大変難しい面もあります。

従って、工業高等教育機関と言われますが、単に技術や専門知識を身につけさせるばかりではなく、人間形成の面も重視しています。

特に、課外活動は正課教育に匹敵する重要なものと考えており、卒業後の将来実践的技術者として必要な社会人として欠かすことはできないことです。

各高専ではクラブ活動は学生会が中心として活動しておりますが、学生主事の指導のもとに、その振興に力を入れています。

学生会の組織は、大学の自治会などとは異なり、学習の一部として、その基本的なものは、あくまでも学生の自主的意識であり、また教員の熱意と努力によって推進しています。

課外活動には体育系と文化系があり、体育系クラブは、大学や高校と較べてその数が少なく、他の学校との交流の機会も極めて乏しい。しかし、体育系の活動を振興するために昭和41年に全国高専協会を組織して、全国8ブロックに区分けして、それぞれ地区大会を行い、毎年地区大会で優れた成績を上げた高専を集め、8月に全国高専体育会を開催をしています。

バスケットボール競技においては、専体協と日本バスケットボール協会との共催として開催しております。競技方法としては、全国8地区から12チームを選出して、四ブロックに分けリーグ戦を行い、各ブロックの1位を選出し決勝トーナメント戦を行い順位を決定する方法で開催しております。

今年度は、第32回大会を北陸地区担当で、8月9・10日の2日間金沢市総合体育館で開催することになっています。

技術面においては、高校選抜大会のベスト8程度の実力と思っています。しかし、各高専には優秀な選手がおりますが、残念なことに専門的指導者が少なく、一同に会して練習時間が取れず苦慮している状態です。

本大会を盛り上げるためにも顧問・選手の努力に期待し、より一層のレベルアップに努めなければならないと考えています。

昔とった杵柄

顧問
梅 戸 仁



も早、バスケットとは偶のOB会ぐらいのご縁しかないものと思っておりましたが、昨春以来振興会からお話やら、某大学の創部50周年のお招にあずかるなど俄かに騒がしくなり、加えてBSでNBLを観るに及びストックトンのプレーに酔い始めた今日此頃です。

雀百まで何とやら、バスケットへの未練絶ち難いとは申せ、果して振興会のお役に立つのかどうか甚だ心もとない次第ですが、少しでもご恩返しの真似ごとをさせて頂けたらと願っております。

戦後、学制改革で新制大学が発足したのが確か昭和24年、それぞれの母体の旧制の大学・高専を土台に新制大学が誕生、運動各部も伝統を引継いだり、新しく結成されたりして参り、新しいリーグを作ろうということで、その結成に参画させて頂くことになり、足繁くお茶の水の協会に出入りさせて頂き、新リーグのみならず各種大会のお手伝いや、審判委員会にも出席させて頂き、笛も吹かせて頂く様になりました。卒業後銀行に就職、当時関東実業リーグ二部迄昇りつめましたが、如何せんメンバーの職場は夫々離れており仕事も多忙を極めていたので、ウィークデーのゲームの多くは参加出来ない状況が続き不本意な結果を辿っておりましたが、幸か不幸か名古屋に転勤になり、太田さん・横竹さんのお誘いでセントラルクラブで遊ばさせて頂きはしましたが次第に疎遠になり、東京に戻ってからはボールを追うどころか笛を吹く機会も無くなっておりました。

今ではTVでの観戦とB・B誌を読ませて頂き、現状把握に努めておりますが、昔とった杵柄、TV観戦中「今は歩いているぞ」とか「あのドリブルのハンドリングはダブルドルブルで何故吹かないのかな」などと一喜一憂している有様です。

寝ていた子がどうやら起き始めたようですが、少々寝ぼけているかも知れませんが宜敷くお願い申し上げます。

第二次大戦の 眞っ只中から現在まで

顧問
加藤 覚



平成9年1月12日常陸宮御臨席の場で日本協会の表
償を頂いたことは誠に嬉しい事でした。思い起こせば
私の成蹊高校時代、京都大学時代は第二次世界大戦の
眞っ只中に有り、物資の極端な欠乏の中で、戦争に出
陣を目前にして、死と向かい合った状態の中で、尚且
つ将来に望みを持ちつつ打ち込んだバスケットボール
は現在のプレイヤー諸君には想像も付かないことでし
ょう。昭和21年、まだまだ多くの人が帰還されていな
いときに、戦後初めての東西対抗戦が行われることにな
り、私も東軍に参加させて頂き、焼け残った竹早高
校の体育館で、牧山圭秀さんが監督で練習をし、西宮
のコートで岩尾隆一監督率いる西軍と戦い勝利したこ
とが思い出されます。その後仕事の都合で神戸に移り、
神戸学士クラブに所属、昭和23年、新潟でオールジャ
パンに優勝して初めて天皇杯を頂きました。

昭和25年以来浜松に移り住み、静岡県バスケットボ
ール協会のお手伝いや、地元高校や中学の生徒とバス
ケットボールをやりながら現在に至っています。

最近のバスケットボールは昔とは随分変わって来て
います。日本の選手の体格もどうやら外国選手に劣ら
ないように見えますが、体質、運動能力の点では相当
見劣りがするように思います。幼児期からの競争精神
の育成と基礎能力の向上に勤めるべきだと思います。
日本にも早くプロバスケットが誕生することを楽しみに
しております。

日本リーグについて一言 ーチームが多すぎるー

顧問
國松 健一



太平洋戦争も末期近くに応召を受け、職場（京都簡
易保険支局）のアウトコートで送別試合をしてもらっ
て軍隊に入った私。そんな者がまだ京都バスケットボ
ール協会、実業団連盟の役員の席を汚しております。

京都実業団連盟の創設に努め、主として京都の実業
団チームのお世話をするとともに、バスケットボール
の普及、底辺の拡大に努めて来ましたが、どれ程役に
立ったやらという思い。

そんな中から昨今、日本リーグについて思うことが
あります。京都は第一回大会から毎回開催をしてきま
したが、パスしようかと議論したこともありました。
それは日本リーグは国内最高のプレーが見られると
ころから、バスケットボールの普及、発展のためにも、
根強いファンのためにも、是非開催をしたいと思う一
方、お客さん（高校生、中学生と愛好者）の目も肥え
ており、好カードには観客が集まり、レベルの低いカ
ードだと客集めが大変で、地方協会では、赤字運営も
ならず、協会役員やら、登録チームに入場券の販売を
割り当てて運営をしなければならないのが実態。

これは、日本リーグのチームが多すぎるからで、原
価の高い売れない商品を抱え、地方で捌こうとしてい
るのと同じであり、このままでは破綻するのは必定と
思います。

多く作って、多く売るのはなく、人気商品を作り、
お客さんの欲望を高めてワッと売り出す方策をとらな
いと、と思いますが、如何でしょうか。



バスケット ボールに思う

顧問
佐伯正博



昭和の始め頃より、ほとんどの学校の校庭には、バスケットのゴールがあった。しかしほとんど使われていなかった。しかし最近では小学校にも立派な体育館が出来、又町角でもストリートバスケットに興じる若者の姿を目にする様になった。特にアメリカのプロの放映がそのスピードと華麗なプレイが現代のテンポとマッチし大いにブームになる事と思われる。そして子供達のバスケットボールへのあこがれがバスケット人口の増加につながり、今後大いに期待されるものと思われる。

しかしこの處久しく男子バスケットはオリンピック出場もままならず世界のBクラスに低迷している事は真に残念でならない。

最近あらゆるスポーツの分野で学生スポーツの凋落がさげばれている。特に団体球技スポーツでの社会人との間にその差が顕著にあらわれ、外人選手の問題はあるにせよ、バスケットボールも例外でなくなってしまっている。

昨年の全日本学生選手権の試合でも、ただ身長だけは大きくなった選手が、自分のペースでコートを行ったり来たりするだけで、バスケットボールの醍醐味であるダイナミックなスピード、体をぶつけあうリバウンドとルーズボール。必死になってボールを追いゴールを目ざす勝利への闘争心等、ほとんど見うけられず、まことに迫力をかくプレイに終始している事は残念でならない。

特に目立つ事は可能性に対しひたむきにチャレンジする姿勢が全く見うけられない事は寂しい限りである。ボールが落ちて来てから取りに行くリバウンド、ボールを取ってからどうするか考えるオフェンス、相手が動いてから動き出すディフェンス等々後手後手のプレイが目につく。バスケットボールの面白さは、次に展開するであろう何通りかのプレイを先き取りし、その時の変化に応じ一番適切なプレイを瞬時に判断し実行にうつす事であり、常に前向きに闘志を持ってチャレンジする事がそのプレイの楽しさと深さを造る事であろう。そしてそれが体力、技術、気力の上に成り立ってこそ、一流の選手であり、一流のチームであり、又バスケットボールの喜びではないだろうか。そしてその様な事を基本にふまえ一步一步過程をおって指導する、よき指導者の育成が急務ではないかと思われる。

精神面、技術面を含め自ら勉強し情熱を持って若者を指導するよき指導者がぜひ多数そだってほしい事を熱望する次第です。

又選手も自ら志を立て、自ら勉強し、自ら苦勞し、のびのびとそしてバスケットの中に喜びを見出し一層の力をつけていただきたい。

より早いスピードとその変化、より正確なプレイとシュート、そして旺盛な闘志の下、日本のバスケットボールを確立し、いつの日かオリンピックボールに日の丸の上る事を夢見る思いである。



自己紹介

顧問
坂上季男



私がバスケットボールに出会ったのは中学2年の時でした。コーチもなく勝手にゲームをして楽しんでいましたが、1945年、高校2年の時の国民体育大会兼インターハイを授業をさぼり、芝のスポーツセンターに観戦に行きバスケットボールの魅力に取付かれてしまいました。

急遽、東京教育大学に進路変更しましたが、超高校級と言われる選手の中で、東京の1回戦チームの選手と一緒にプレーすることは出来ませんでした。何とか努力がむくわれ3年でやっと1軍に入り、ベンチに入れるようになりました。4年では関東大学選手権優勝、リーグ戦三校（教育大・立教大・日本大）優勝、全日本総合選手権大会は糸山・坂上・川井・衣川のメンバーで初優勝しました。

卒業後は公立高校の教員となり、高校バスケットの発展にと東京高体連常任委員、1965年より副部長を務めました。1970年～1990年まで全国高等学校体育連盟副部長を務めましたが、第2回全国高校選抜優勝大会から全国高体連の独立採算制で行い、多くの批判を受けながらも軌道にのり黒字分は全国各ブロックの選手強化費としてお配りすることが出来るようになりました。主管の東京高体連の先生方には大変ご迷惑をおかけしましたが、現在の選抜大会があるのも先生方のご協力の賜ものと感謝しております。この大会のテレビ放映、新聞報道が思うように行かなかったことが残念でなりません。TBSテレビはラグビーに取られ、テレビ朝日はゴルフ優先と断られ、テレビ放映なしが何年か続き、テレビ放映を希望する声が高まり、12月ならテレビ朝日が放映出来るということと、選手強化を含めて12月開催を決断しましたが、高体連の猛反対にあいました。今はすっかり定着している大会を見ると、複雑な思いがいたします。

日本バスケットボール協会理事・監事を延べ15年間務めさせて頂きましたが、公務の関係で十分な仕事も出来ず、単に高体連との連絡係りになってしまったことを悔やんでいます。

審判はインターハイでは何度か男女の決勝を、全日本総合選手権でも1度ずつですが男女の決勝を吹き、選手のプレーの厳しさを強く感じさせられました。

現在は東京都バスケットボール協会副会長を務めさせて頂いております。これからも、何かとバスケットボールにかかわり、どんなことでもお手伝いできれば嬉しいことだと思っております。

尾崎さんと語る

顧問
関悦受



昨年8月、大阪で全日本教員バスケットボール選手権大会が、「なみはや国体」のリハーサルとして開催された。その折、大阪協会の会長をされている尾崎さんと夕食を共にする機会をもつことができた。丁度、アトランタのオリンピックが終った直後でのことでもあり話題は自然と日本女子チームの健闘が中心となった。20数年前、女子チームの監督として世界選手権大会で2位の実績を残した彼にとってみれば久々の快挙に嬉しそうに大病の後とも思われない程自分のバスケットボール論を語ってくれた。当時、身長に劣るチームを忍者ディフェンスの名で平面的動きで勝ち取る日本独自のバスケットを作り出した「手作りのバスケット」であることを強調していた。その頃の日本協会の中では未だオリンピックは男子でなければといった考え方が支配的で、20数年の空白が生じた事を悔やんでいた。幸い今日の女子チームの成長も形は違っても、中川イズムが浸透し手作りに近づいたことを喜び、次期オリンピックへの夢に期待を膨ませていた。一時再起を危ぶまれた彼のバスケットへの情熱の深さに驚かされながらも有意義な一刻を過ぎた。

振興会の方々も、彼に劣らぬバスケットボールへの情熱の持ち主でしょうし、仕事の内容も大変立派で日本のバスケット・ボール界に欠かすことのできない事項ばかりだと思います。しかし現在の世情は全部を満足させることのできる状態ではありません。振興会ニュース第4号で編められている項目の中で、先ず何をしなければならないのかを整理し現実には出来るものから解決していく方向を是非とっていただきたい。私も4月から年金生活者の1人になります。金銭的な協力には限度がありますが、今後できる範囲でのご協力をしていきたいと考えています。一層のご指導をお願いいたします。

バスケットボールを やっていたよかった

顧問
関 四 郎



久し振りに出勤時間（朝）に外出する機会があって、中央線JRの新宿駅でホームに降り、混雑する人達と共に階段を降りかけた時、前の人の足にひっかかり危うく倒れかけたが、幸い横の人との隙間に上体を滑らせ、運良くディフェンスのサイドステップの構えで倒れるのを免れることが出来た。その後数日たって家の8畳の部屋から板の間に出るところの敷居に躓き、咄嗟に倒れかけた時もうまいことに両手が前に出て転倒を支えてくれた。

このようなことがあってから考えて見るに70歳を過ぎた4・5年前から仕事の関係で体を動かさなくなつてから、時々歩行中や家庭での雑務の間で、“ヒヤリ”とする様なことが何度かあったが、その都度大きな怪我や事故に至らずに済んできた。その救われた背後には、バスケットボールで培ってきた身体の動きが反射的に或いは随意的に適切に働いてくれる状況が残されていたからではないかと考えられる。

勿論、スポーツのどの種目もそれぞれ特色があって大きな差はないと思うが、バスケットボールは、身体の全機能を総合的に使い、走ること、跳び上がること、ボールを捕み投げること、そのうえボールをパスする、ドリブルする、ショットするなど、片手ききから両手ききに使いかえ、ゲーム中の状況の変化に対して適確な判断を敏捷に行ない、よい反応による活動が伴うように鍛えられてきたからではないかと推測され、特に、これらの判断を行うための周囲の状況把握には、直接視野で前方や相手の直視をすると共に、間接視野で側方の相手を注意深く読んでいくことが極めて重要で、これまでの練習やゲームのなかで自然に身についたのではないかと自負し今後も安全に過ごせるであろうと日々感謝している今日この頃であります。

頭の中からバスケット のことが離れなかった

顧問
日 高 明



東京を離れてから早くも10年が経ちました。退職して丸2年が経ち、今は自由の身で南国宮崎の地に住んで居ます。宮崎は青島の近くで1年を通して温暖で、ゴルフや釣りを楽しみながらやがて74才を迎えようとしています。1936年にはじめてボールを握ってから60年近く経ちましたが、牧山会長をはじめとして諸先輩方が御活躍中のことを思えば、私などは未だ若輩なのかも知れません。

過去60年を顧みると、現役選手の時、コーチの時、協会役員の時と殆んど毎日々が勝負の世界であったし、頭の中からバスケットのことが離れなかったような気がしています。ここ2年程は、BSテレビでみるNBAのゲームやスポーツイベント“バスケットボール”や振興会ニュースが情報源になっているのみで、なまのゲームに接する機会がなくなったのが残念です。それでもゲームを客観的に見られるという利点があり、それなりにバスケットボールを見つめ直すことも出来るわけです。

どうしたら日本のバスケットが再び世界で活躍出来るようになるのか？ その具体的な策は何だろうか？

機会があれば私なりの考えを提言申し上げたいと考えて居ります。

終りに、バスケットボールを通して、全国的に知己を得ました諸先輩、同輩、後輩の皆様方の益々の御活躍と御発展をお祈りして筆を措きます。



当時の思い出

顧問
山縣敏夫



私も昨年古稀を迎え、70代の仲間入りをしました。未だバスケットにとりつかれ縁を切ることが出来ずその魅力に驚嘆しています。終戦後の昭和21年から23年頃が大学リーグに参加させてもらったなつかしい時代です。当時の東大は一部リーグで優勝一回、常に上位の成績をあげていたものです。ちなみにリーグの一部に所属していたのは、文理大（現在の筑波大）、早大、慶応、明治、立教と東大の六大学です。高校の先輩である富士秀雄理事長の推薦で振興会に名をつらねさせていただきました。昭和37年（1962年）以来駒沢大学で英語を教えるようになり同大学でバスケット部の部長を30余年つとめました。駒大バスケットはリーグの二部と三部を往復していましたが、現在も牧野茂監督のもとで大いに活躍しております。母校の東大と駒大とが常にリーグ戦で顔合わせをしてきたのも不思議な縁と思っています。

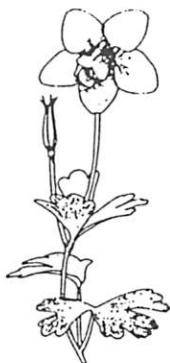
更に当バスケット振興会の役員名簿を手にした時、そのなつかしさに昔へ逆もどりしたような錯覚におちいました。コートの中で活躍する井上一男、関口莊次、加藤雅春、青井水月（いずれも文理大）、大塚周一（早大）、小張剛作（早大）等のドリブルやジャンプシュートが目の前に浮かび上がってきました。又、私共があこがれていた先輩方の中から牧山圭秀会長（早大）、畑龍雄、池田博氏（共に東大）の名が浮かび上って来て、本当に夢心地の思いが致しました。最近はやや体調をくずし直接プレーに接する機会は少なくなりましたが、野球、ゴルフ、ボクシング、サッカー、バレー等にまで広まってきたスポーツのプロ化に思いをいたし、我がバスケットボール界も世界への飛躍を望みオリンピックを始め、世界の槍舞台への大活躍を望むのは私だけなのでしょう。私の記憶違いや、乱舞は老いに免じてご容赦下さい。

雑感

理事
下間光雄



日本リーグの男女決勝は仲々味があった。リーグ機構の位置づけはさておき、男子外国人2人制は、観せるといって成功しているし、若い人を魅せる方向づけにも役立っている。また各チームの指導者の夫々の意見をチームが理解し、チームの思想として勝利に結びつけようとする努力も見えて楽しみもあった。日本ではジョーダンのように個人でバスケットを表現するのは無理だが、チームとしての表現が出て来たのは貴重である。外国人導入以来、ポストにパスインして、センター同士の1対1が勝負を決する単調なバスケットが横行していたが、最近は、ディフェンスを固めて速いテンポの動きでチャンスをつかむ形でゲームをコントロールするチームが増えて来た。女子の2チームは甲乙つけ難く、男子は、“いすず”の分厚いチーム力が制したか、トヨタのバスケットか、日本ナショナルチームの目指さねばならぬ方向を示しているように、私は思う。外国人2人制は双刃の剣であり、成功の一方、日本人センターは育たず、山崎君一人という状況である。全日本選手権ぐらい日本人だけでやればよいと思っていたが、これも外国人に全面解放ゆえ、今後、どのようにセンターを育ててオリンピック出場を果たすか課題となる。シドニーは、2世選手等々で分があるとしても将来どうするのか。ナショナルチーム対外国人選抜のゲームを数多く組むべく、協力を要請するのも一法。なお、ナショナルチームだが、男子の場合、私の夢は、小浜総監督、シャローヘッドコーチ、倉石アシスタントコーチで、選手は、このスタッフに自由に選んで貰うことで、必ずオリンピックに出場できると思うのだが、協会はどうか選考されるのだろうか。シャロー氏を招請するのか、オリンピックへの最も近道と私は考えている。



国民体育館物語

理事
中川 幸男



懐かしい国民体育館

往時、国民体育館は東京神田・一ツ橋の共立講堂の隣、カソリンスタンドの裏にあった。戦争前につくられた唯一の国有室内体育館施設であった。戦争後しばらくは進駐軍に接収されナショナルジムと称されて、民間の使用はできなかったが、昭和25年頃返還されてバスケットのメッカになった。

300坪程の敷地に本館と15m程の屋外水泳プールが付帯していた。暇なときはバスケットでかいた汗を流しつつ水泳で遊んだものだ。本館は木造でバスケット1面のほか事務室と宿直室、喫茶室、2階に小さな会議室があった。相当に老朽していて雨漏りはするし、廊下は弓なりになっていまにも底が抜けそうであった。しかしコートは戦前、特注した外材を使ったと言うだけあって多年の風雪に耐えいささかの狂いもなくガッチリしていた。観客席と言えるほどのものはないので、日本協会はなけなしの財布から5万円程を捻出してスタンドを建設した。桎材を階段式に5段に組みボルトで固定した移動式でコートサイドに設置した。300人程度座れた。

当時のバスケットの主な競技会はほとんどここで行われた。もっとも全日本の決勝や国際試合ともなると両国の旧国技館（メモリアルホール）等を持って行ったが、東京体育館や早大記念会堂などができる前の話である。

国民体育館の敷地は隣接する共立女子大学に狙われていた。共立はここに学校の体育施設を作りたいかったらしい。学長の鳩山薫子さんの名で何度か文部省に払い下げ申請が出された。その都度、日本協会の強力な反対で流れたが、鳩山一郎元首相の周辺からの圧力もあり昭和30年代になってとうとう共立の手にわたり、懐かしの国民体育館は消滅してしまった。文部省はこの金で北区西が岡にサッカー場（今は研究所になっている）を建設した。

国民体育館施設のヤミ利用

国民体育館は文部省所管でその運営経費は文部省から支出される。一方施設利用料は文部省に納入され運営経費に充当されることはない。ところで運営経費、とくに光熱水費の予算は極度に切り詰められていて年度の前半で使い切ってしまう。すると体育館を利用したくても電気もつかない。水も出ないということになる。秋のシーズンを迎えてこれでは困る。それで文部省の担当と相談して、毎年秋から次年度予算が確定するまでヤミ利用した。

建前上は国民体育館は光熱水費を違い切ったので当分閉館ということになっている。そこで閉館中の管理は日本協会に任せて貰うことにしたのである。

つまり日本協会協会でコート割りをし、使用料をとって光熱水費等を支払う。不足が生じた場合は日本協会が補填する、というわけである。コート割りは以前から文部省にかかわってやっていたので苦にならなかった。ただバスケットで独占するとあとがうるさいので、たまにバドミントンとかフェンシングなどをいれた。経費は使用料で賄って余裕が出たので期末の使用料は無料にした。勿論文部省には見てみないふりをしてもらった。

頑固一徹の管理人

国民体育館の管理人に富永さん、藤本さんという老人がいた。藤本さんは温厚な人だったが、富永さんは人が良かったが頑固でこずった。まず土足で玄関に入ろうとすると雷が落ちる。煙草など吸おうものなら箒で追っ掛けられる。500人も入れれば満員になってしまう体育館だからそれ以上は絶対に入場させない。2階の手すりに観客が入ろうものなら間違いのように怒鳴り阻止する。ボール等競技用具は絶対預からない。国民体育館の名物親爺だった。

怒鳴られるのは大抵学連の若いマネージャーである。この連中は悪智恵が働くから仕返しを考える。富永老の愛妻のつくった弁当をそって食ってしまったり、作業衣を水浸しにしたり、椅子に風船を隠して破裂させたり、「不良ども、またやったな！」富永老は怒り心頭、それを見て学連は大笑いするのである。

事務室の隣にある宿直室は畳敷で恰好の溜まり場であった。競技終了後この部屋で役員やマネージャー等が一杯やりながら長談義をする。宿直室は自分の部屋と心得ている富永老は心中穏やかでないが、流石に協会の長老には遠慮がある。柿の種などつまみを差し入れながら「そろそろ時間でー」等の暗に空け渡しの催促をする。これを見習って学連のマネージャー達もこの部屋を利用するようになった。あるときスキヤキ会をここでやった。日頃世話になっているからコート掃除は自分達でやるからと富永老を先に帰宅させ、そのあと盛大にはじめた。翌朝出勤した富永老は仰天した。「一升瓶は転がり鍋は焦げつき、畳は煙草の吸殻が点々、バスケットの餓鬼どもが！」富永老は日本協会に怒鳴り込んだ。

それから数日後、スキヤキパーティの首謀者数名は富永老の前で手をついて詫言をいれた。怒気満々の富永老だったが畏まった学連の連中をみて少し気の毒になったのか「若いときは多少羽目を外すことはある。今後は気をつけてもらうことにして、まあ今日は一杯やれヨ」と押入れから一升瓶を持ち出した。

バスケット・
詩吟・パチンコ

理事
薄井千代



私の趣味はバスケット、あとは殆どが三日坊主が多い中で、12年も続いているのが、詩吟です。趣味の段階から抜けきれず少しも上達しておりませんが、ボケ防止の為と言って、始めたのが、少しは役にたっているのか、自分ではボケていないつもりですが？ 詩吟は複式呼吸ですので、声はださなくても、電車の中で爪先で立って、呼吸法を行っており、よろけた時、囲りの方々にご迷惑をおかけしております。声を出すことは楽しいです。友達に古くさい詩吟などせず、カラオケをやったと言われるのですが、私は音痴なのです。それで詩吟も上達しないのかも。先生に言われました。

どうしようもなかったが少しは吟らしく、なって来たと言われ嬉しくもあり、淋しくもありましたが、ここまで頑張ってきたのだ。あと何年この世にお邪魔しているかわかりませんが、吟じつづけるつもりです。もう一つの趣味として、パチンコがあります。その日の感情を台にブツケます。怒り、楽しさ、悲しさを台は反応してくれるように思います。

出ないと言って怒る人、私はそんな時にもバスケットでの楽しかったこと等、色々思い出して乍ら我慢の子です。あと楽しみは稽古の帰りに仲間と一杯やり乍らのお喋りです。なんと言っても一番好きなのはバスケットかもしれません。

伊勢市の全国
大会の応援に行った

参与
小島典江



私が入社した頃は、当社（東京海上）のチームもまだ日本リーグ2部に在席していた。少ない人数は今と変わらないが一番いい時期だったかもしれない。

関東実業団リーグに降格した時は最上級生で、表現のしようがないくらい惨めになった。翌年の入替戦で復帰を目指したが…。あれから関東リーグに甘んじている。現役を退くとなんとなくチームからも足が遠のいてしまい、現役とOGの溝を作ってしまったようだ。

日頃、罪滅ぼしと言う訳でもないが、2月に伊勢市で開催された全国大会の応援に行ってきた。1試合を観戦し、とても不安になった。あまりにもできが悪い。しかし2試合、3試合とこなしていくうちにチームも上昇、特に3試合めは素晴らしいできでとても感動した。帰りの新幹線の中でもその興奮やまず。

現役に感謝すると共にこれをきっかけに少しずつ溝をうめるべくOGとしての責任を果たそうと思う。現役選手もOGが応援に来たくなるような試合をしてほしい。厳しい環境の中で自分の時間をさいてやっているのだから、悔い無き現役生活を送る様に。



バスケットに一言

参与
庄司芳一



バスケットボールにたずさわってから休むことなくどっぷりつかっている1人です。人生を重ねたものが何か物申すとすぐ愚痴になりがち、気をつけながら物申すとおもしろくも何でもない。そこで、めげずに最近のバスケットボールに一言。

流行は繰り返す様です。20年前の背広が「今ちょうど合う」とも言われます。私のバスケットボールはただ馬車馬のごとく、指導者は神様とおなじ、言われるままに雑念をすべて捨て、短い競技生活ただひたむきにやってきました。トレーニングマシンもなく、今とは逆に水は飲むな、水の中に入るな、うさぎ跳びは最高の精神トレーニングだ。変われば変わるものです。しかし、うさぎ跳びをやりすぎて足を駄目にしたものは一人もいなく、今では皆人生の指導的立場になっている。スポーツをやる者は丸刈り頭が定番、なぜなら、それが一番いい条件だからだ。

アジアでさえ遅れを取っている日本。今時の指導者理念の問題よりも、まず昔に戻って、基本に忠実に余分なものはすべて捨てて取り組めないものか。髪型が何だ、異性、酒、タバコなど問題の外だ。100年計画でもアジアで勝てないだろう。どんな仕事もそれなりに下足番から一步一步のぼりつめ、人間の喜怒哀楽を重ね、一端になって行く。スポーツ選手は頑張っても30才までだ。これは、人生の肥やしだ。

今の日本は、ルーズボールスピリットで、どこの国にも勝てないだろう。少し考えてみよう。なぜ他の国の選手は土壇場であの力が出てくるのだろうか。簡単です。やっていけないことはせず、ただひたすらに教えられたことに忠実に全力で向かっていってのみだ。そう言う意味では、我が母校はさすが全日本選手、いや世界に通用する選手作りを目指していると思いきや、最近では、墮落の道を歩み始めたようだ、ただ勝てばいいわけではないし、どこかの誰かが本気で、根本から立て直して欲しい。日本を変えて欲しい。我々はこのぞって後押ししようではないですか。流れを変えましょう。頭を高くして、寝てられる時代はもうすぐ終わる。日本には、天敵が必要だ。もっと野生を！問題は山積みだろうが！やっぱり愚痴になってしまった様です。

二足の草鞋を はきながら

参与
松岡憲四郎



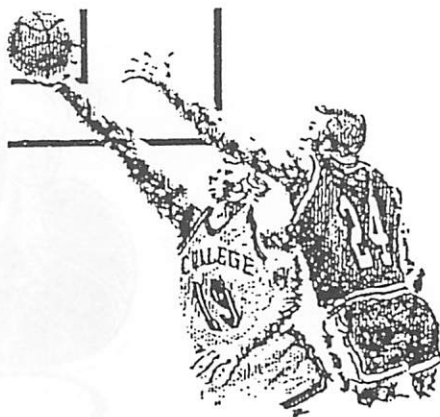
渡辺誠君の熱心な勧誘により入会致しましたが、著名な大先輩諸氏がお集まりのこの会に名を連ねたことに、いささか戸惑いを感じています。

18年間、学生女子、男子の連盟に携わり、この3月で日本学連の総務部長の4年間の務めがひとまず区切りを迎え、向後2年間は関東女子学連の理事長に推され、生業である会社業務と共に、まだまだ二足の草鞋をはきながら、運営の“現場”で忙しく動いている身であり、多くの会員の皆様のように大所高所から日本のバスケットボールを語る立場ではなく、むしろ浅学非才・未熟の身、機会がございましたら、ご指導、ご配慮賜りたく思っている次第です。

40年間、“順調”ではありませんでした、いろいろな形でバスケットボールに携わってきて、今でも係わっている事を思う時、周囲の皆様方のお陰と感謝しております。

私がこれまで携わってこれたのは、バスケットボールの競技性等そのものが好き…という事もさることながら、自分が“バスケットの好きな人が「好き」だから…”なのだと思います。

各々の立場や取り巻き状況により、いろいろな意見、主張がありますが、何が“基本”かを問いつけながら、より良くする為に、より発展する為に何をすべきか…を集約し、それを実行していく中で、人と人の関わり合いを大切にしたい…と思う今日この頃です。



むづかしいこと
はわかりませんが

会 員
佐 藤 綾 女



ボードセーリングで色とりどりの帆が海にゆれる千葉市美浜区に家族4人、4羽のオカメインコと共に生活しております。私は現在後楽園スイミングスクールで水泳のインストラクターとして成人や子供達と共にプールの中を動きまわっている日々です。子供達とすごしていると年齢を忘れていますが、道路いっぱいひろがって自転車で走っている高校生を見ると、文句の一つも言いたくなる世で言うオバタリアンの仲間になってしまいました。

第一銀行（第一勧業銀行）勤務時代に全実の競技委員会のお手伝いをさせていただいた関係で振興会に入らせていただき、久々のパーティーでなつかしい方々にお目にかかる、とても楽しく、永いブランクがふきとんだような気がいたします。バスケットとは数年離れていましたが、千葉市から依頼されミニバスケットの普及のため小学校をまわったり、地域の子供のチームの指導をしたりしました。しかし学校体育と社会体育とのはざまで悩むことも多く、個人的には限界を感じ、今ではすっかり手をひいてしまいました。

沢山の子供達にバスケットの楽しさを知ってもらい、バスケット人口の底辺をひろげる努力ももっと必要だと思います。また種々のゲーム等に関する情報が一般の人には知りにくく、もっとメディアを通してのPRがあっても良いように感じます。むづかしい事はわかりませんが、幕張メッセ近くのコートで数人の人々がシュートをしている姿等を見ると、もっともったこのような風景が見られるようになると良いなと心から思うこの頃です。

